

デザイン工学部

【2025 年度 大学評価総評】

デザイン工学部は、自らを「知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学」と位置付けている。コロナ禍で培われたオンラインツール（建築学科の「デザインスタジオ3・4」講習会など）の利用を含め、デザインに必須の3D教育にも積極的に取り組んでいる点は評価に値する。ポリシーに基づく学習成果については、様々な方法で達成度の確認が行われているが、可能であれば、客観的データに基づく考察を行うことも一考である。

全学共通プラットフォーム科目「海外フィールドスクール」を外国語科目の卒業所要単位として認定した点も評価できるが、これも履修者数などの数値データによる評価を期待したい。専任教員の新規人事により、比較的若い年齢構成を実現できたことは評価できる。理系学部においては、専任教員の女性比率改善が一つの目標とされているので、今後、この点についても対応を期待したい。学生支援として、大学から大量に送られてくるメールについて学生からのヒアリングを実施して実態を調査し、改善に向けた検討を行っている。

2025年度の中期・年度目標として、引き続き英語教育を挙げている点は、教育の一貫性という面から評価できる。また、「教員や学生の受賞作品や受賞論文を容易かつ効果的に提示できるホームページ」や社会貢献活動の一環として「学生と教員による現地調査を行い、地域住民と学生によるワークショップ」を提案していることも、開かれた大学教育として期待できる。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】(参考)

デザイン工学部はほぼすべての評価項目について適切に対応しており、各項目について更に推し進めた取り組みを行っている。特に学生の教育の充実と地域連携、社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、今後さらなる成果に期待したい。また、デザイン工学部の各学科は、工学をベースにしながら他の組織や学問分野との連携を図ることで学生教育を充実させている。これは知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学としての「総合デザイン」能力を身につけた学生を養成しようとする理念にかなっており、高く評価できる。

授業形態については、多人数科目やコンピュータ実習科目に対してコロナ禍で培われたノウハウを生かしオンラインツールを併用して教育効果の高い授業が展開できたことは評価できる。

「学部横断的な学習効果の共有と評価方法」に関しては、2023年度から学習成果可視化システムの運用を開始し、前向きな取り組みを行っていることは評価できる。引き続きの検討を期待したい。

年度目標達成状況報告書では、2023年度にB評価であった基盤教育担当専任教員の採用人事について2024年度の重点目標として挙げられており妥当である。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

学生教育の充実と地域連携、社会貢献活動については、更なる成果を期待される中で、地域連携においては沼津市（静岡県）に加え、大江町（山形県）でも新たな取り組みを開始することができた。

学生教育においては、工学を基盤とした「総合デザイン」能力の育成に向けた取り組みが評価された。その一環として基盤教育科目の充実を目指し、基盤教育担当専任教員の採用人事を2024年度の重点目標として掲げ、教員組織の年齢構成および分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行った。次期カリキュラム改定における学部横断的な基盤教育科目の実装に備え、今後は基盤教育担当教員を中心に具体的な内容の検討を進めていくことを2025年度の重点目標として設定した。

授業形態については、オンラインツールの併用が評価されたが、その特性を踏まえ、繰り返しの学習・確認が必要な内容について、デジタルコンテンツ化を新たな目標に設定した。

引き続きの検討が期待された「学部横断的な学習効果の共有と評価方法」に関しては、学部横断型科目の受講動向の概要把握が進んだことを受け、今後はより具体的かつ詳細な検証を行うことを目標に設定した。

(2) 改善・向上の取り組み(教育課程およびその内容、教育方法)

アセスメント・ポリシーに基づき、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果を把握しましたか。結果を学部としてどのように評価しましたか。 《対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。》	S. 学習成果が達成できていることが確認できた A. 学習成果が概ね達成できていることが確認できた B-1. 学習成果が達成できていないものがあつたことを確認できた B-2. 学習成果の達成度を確認するには、測定方法が不十分であることが確認できた B-3. ディプロマ・ポリシーの見直しの必要性を確認できた	S (学習成果が達成できていることが確認できた)
上記の選択をしたのはなぜですか。実施主体、測定対象や測定方法を踏まえて理由を具体的に記入してください。		
《理由》 ディプロマ・ポリシーの I (「人文科学、社会科学、自然科学にかかわる基礎となる幅広い知識をもって、複眼的・多面的に思考する能力を身につけている」) に示された学習成果が身につけているかどうかを、複数の測定方法を用いて多角的に確認した。 【ブレイスメントテスト】初年次教育においてブレイスメントテストを実施し、基礎学力について計測した上で、執行部および各学部で確認するとともに、リメディアル教育の学習成果を各学科で確認した。 【TOEIC-IP】初年次教育において、TOEIC-IP テストを年 3 回実施し、成績の推移によって学習成果を計測し、その結果を英語教育委員会で確認した。 【GPA】各学科で定めた GPA 基準を満たさない学生に対して面談を実施し、成績不振の原因と改善策を把握した上で、その結果を学科会議および教授会にて確認した。 【進級基準】進級に必要な学力を測定するために、各学科において履修単位ごとの進級基準を定め、進級判定の結果を教授会にて確認した。 【合議による判定・評価】卒業研究・卒業制作において、各学科で教員全員による判定・評価を行うことで、客観的かつ総合的な測定を実施し、その結果を学科会議および教授会で確認した。		
教育課程およびその内容、教育方法について、学部として過去 4 年間 (2021 年度～2024 年度) の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から《改善した項目》を選択し (レ点チェック)、その詳細について《改善内容》《改善した結果良かった点・課題》を記入してください。 《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》		
事例		
《改善した項目》 (複数選択可)	☐ ①開講時期、開講頻度、授業時間等 ☐ ②授業科目の内容 (目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合) ☐ ③授業科目の関係 (各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等) ☐ ④教育方法 (授業の形態、授業方法等) ☐ ⑤評価基準、評価方法 ☐ ⑥学生の履修 (履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等) ☐ ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 ☒ ⑧学習支援 (単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み) ☐ ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 ☐ ⑩その他	
《改善内容》 ※理由を含めて記入してください。 大学から学生に送信される「お知らせ」メールが膨大であるため、重要なメールを見逃してしまうことが問題となっていた。デザイン工学部では、学生モニター制度を活用して学生にヒアリングを行い、大学や教員からの連絡がどのように届いているかを実態調査した。その結果を踏まえ、学習支援システムの推奨設定などを教授会で共有した。		
《改善した結果良かった点・課題》 2025 年度より学習支援システムが更新されたことを受けて、新しいシステムにおける情報発信の最適		

化を今後進めていく必要がある。

(3) 改善・向上の取り組み(教員・教員組織)

教員・教員組織について、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを《項目》の中から選択し、《内容》を記入してください。

・教員組織に対する取り組み※

※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理(複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む)について

・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果

・授業における指導補助者(TA等)の活用に対する取り組み

《対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。》

《対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。》

《対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

《特色または課題》	特色
《項目》	教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果
《内容》	デザイン工学部の特色であるデザイン教育においては、多角的な視点からの指導が求められるため、デザインスタジオや卒業制作の講評会には他学科の教員も相互に参加している。また、デザイン教育のために各種の工作器具を備えた造形制作室を設けており、これを教育活動においてより効果的に活用するため、「造形制作室運営委員会」を設置し、活用に関する情報交換を行うとともに、安全管理や使用ルールの整備にも取り組んできた。

Ⅱ. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

学部における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》 《対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A(概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

(2) オンライン教育の取り組み

オンライン授業は「2024 年度以降の授業編成における留意点について(報告)」(2023 年度第 6 回学部長会議資料 No. 7) に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。 《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A(概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

(3) 学生の声を活かした取り組み

学部レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない	A(概ね従来通りである又は特に問題ない)
-----------------------------------	--	----------------------

≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫	B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
≪内容≫		
授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 ≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに組み込んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
≪内容≫ 建築学科の「デザインスタジオ3・4」講評会において、発表者の図面や模型が見えづらいという指摘を受け、講評会の時間中に限り、それらの資料をオンラインで公開し、参加者が持参したPCで詳細を確認できるようにした。		

Ⅲ. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準		教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標		1) デザイン工学部基盤教育方針を反映したカリキュラムの再整備を行う 2) デザイン工学部全体の英語教育のあり方について検討する
年度目標		1) 基盤教育専任教員2名の採用分野、採用基準および採用方法を見直し、採用活動を行う。 2) 学生の長期的な英語学習への意欲を高める工夫をし、高学年向けの「海外英語研修」についてのカリキュラムの検討を行う。
達成指標		1) 基盤教育専任教員2名の新規採用人事を行う。 2) 学生の進路を見据えた英語学習の意義を強調し、学習意欲を高める工夫をする。 また、市ヶ谷コミュニティ連携会議で検討されている文理融合型の「海外フィールドスタディプログラム」を取り込む形でカリキュラムを検討する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	1) 基盤教育専任教員2名を採用が決定し、目標を達成した。 2) 全学共通プラットフォーム科目「海外フィールドスクール」を外国語科目の卒業所要単位として新たに認定し、高学年向けの外国語科目を充実させることができた。
	改善策	特になし
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1) 目標通りの採用人事が行えたことは評価できる。 2) 全学プラットフォーム科目を高学年向けの新規の外国語科目として認定したことは評価できる。
	改善のための提言	特になし
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		1) 造形製作教育の中期的な運用・更新計画を検討する 2) 対面とオンライン教育を併用した実効的な教育方法を検討する
年度目標		1) 造形制作室の利用状況をモニタリングし、効率的かつ安全な運用計画を策定する。 2) 対面においてオンライン授業の方が教育効果の高い事例を把握し、カリキュラム

		に活かす。
達成指標		1) オンライン予約システムを利用して、造形製作室の全体の稼働状況を年間を通して把握し、中期的な運用計画を策定する。 2) オンラインでも教育効果の高いコンピュータ実習科目については、オンラインツールを効果的に併用している科目を把握し、教育方法の改善を図る。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	1) 造形制作室の利用状況をモニタリングして把握するとともに安全で効率的な運用について検討し、前年度に策定した利用ルールを再確認した。また、道具の定置管理の見直し、安全な動線の確保、Calendry によるアカウント管理や機器別の正確な時間管理などの改善を図った。 2) 一部教員に対して調査を行い、オンラインによるプログラミング教育では、教師の画面操作の視認性の高さ、学生 PC の遠隔操作の活用などメリットが報告された。またデメリットとして学生 1 人 1 人の上達の程度を確認しにくく、学生に合わせて授業の方向性を修正しにくいという点が挙げられた。
	改善策	1) Google サイトにて予約サイトと機器の扱い方をまとめているので、造形制作室運営委員会で検討し、早い時期に学生に公開する。また、このサイト内にて機器の取り扱い注意や運用ルールなどを記載し、より安全な使用を促す。 2) オンライン教育を行っている全教員に対してアンケート調査を行い、さらに幅広く事例を把握する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1) 造形製作室の利用状況を把握し、運用計画をより安全で管理しやすく改善したことは評価できる。予約サイトや機器の扱い方などを学生にできるだけ早めに公開すべきである。 2) オンライン教育のメリット・デメリットについて調査したことは評価できるが、もう少し幅広く調査すべきである。
	改善のための提言	1) 予約サイトと機器の扱い方、注意事項や運用ルールなどの記述をまとめ、造形製作室運営委員会にて承認し、学生に公開するまでの日程を決めて準備を進めてはどうか。 2) 教員向けのアンケート調査項目を策定し、Google フォームで全専任・兼任教員に向けて過去・現在にオンライン教育に関する調査を行い、今後のカリキュラム改革に活かしてもらいたい。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		学部横断的な学習成果の共有と評価方法を検討する
年度目標		学部横断科目の確認と他学部学生の履修状況をより綿密に把握・分析し、共有する。
達成指標		学修成果可視化システム「HaLo」により、学部横断科目の履修状況を把握・分析するだけでなく、授業担当者に直接ヒアリングするなどして、履修状況の実態をより深く把握することも検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学務から直接データを取り寄せ、2019～2024年度の他学部学生の履修状況を分析したところ、2021年度まで数名だった履修者数が2023年度55人、2024年度82人と急激に増加していることがわかった。ただし、教員個別のヒアリングは行っていない。
	改善策	受講生の多い科目について、担当教員から直接ヒアリングを行って実態調査を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学部横断科目の他学部受講生の履修状況を分析したことは評価できるが、当該科目の担当者に直接ヒアリングあるいはアンケート調査を行うべきである。

	改善のための提言	アンケート調査項目を策定し、Google フォームで履修状況の調査を行い、必要であれば個別にヒアリングを行って今後の学部横断科目の増枠や改善を行うために活かしてもらいたい。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	デザイン工学部の教育の特徴や魅力を独自に発信する方法を検討する
	年度目標	教員や学生の受賞情報等を迅速に学部ホームページに掲載するだけでなく、より魅力ある提示の仕方を検討する。
	達成指標	各学科の受賞論文や作品の見せ方を調査し、容易かつ効果的にその実績を提示できるようなホームページの構成を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	システムデザイン学科では、「お知らせ」での速報以外に、学内外受賞作品を作品集として毎年度まとめて公開しているが、建築学科と都市環境デザイン工学科はニュースとして公開するにとどまっている。
	改善策	建築学科と都市環境デザイン工学科においても学生の論文・作品集を公開し、実績を一覧できるようにする。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	各学科ともホームページに速報として受賞状況を公開しているが、作品集としてまとめて公開しているのはシステムデザイン学科のみであることが惜まれる。
	改善のための提言	各学科とも学生の受賞作品や優秀作品・論文をまとめて一覧できるように公開すべきである。教員の受賞作品や論文等も該当サイトのリンクを張るなどして一覧できるようにしてもらいたい。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	2021 年度に策定した基盤教育方針に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	昨年度に引き続き、基盤教育方針に沿って、担当分野を選定し、専任教員の採用方法を決定する。また、採用の際は、教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮する。
	達成指標	年齢構成と分野のバランスを考慮して基盤教育担当専任教員 2 名の新規採用人事を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	基盤教育専任教員 2 名を新規採用することができ、採用枠 4 名の年齢構成は、58 才、45 才、44 才、42 才（2025 年 3 月 31 日現在）となっており、それぞれまったく異なる分野の専門家である。また、2025 年度採用の後任人事となる専任教員 2 名の年齢構成は、45 才、38 才となっており、全体的にもバランスの取れた人事を行うことができた。
	改善策	特になし
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	基盤教育専任教員の新規採用において、バランスの取れた年齢構成で多様な専門分野をもつ人材を採用できたことは評価できる。
	改善のための提言	特になし
	評価基準	学生支援
	中期目標	学生と教員の円滑な連絡手段を整備する
	年度目標	大学から学生に送信される「お知らせ」メールが膨大になっているため、重要メールを見逃してしまうという問題に対して改善を行う。
	達成指標	大学から学生に送信される大量のメールの実態を調査し、Web 掲示板や学習支援シス

テムからの「お知らせ」を重要度別に区別できるような方策を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価 S
	理由 学生モニター制度を利用し、大学から送信されるメール全般について、各学科2名ずつの学生からヒアリングを行い、実態の調査を行った。学生は、週40通程度のメールを受け取っており、少なくとも参加学生においては件名をみて重要度を判別し、賢く対応・処理している実態を把握できた。
	改善策 特になし
	質保証委員会による点検・評価
	所見 学生モニター制度を利用して、大学から学生に送信される大量のメールについての実態調査を行ったことは評価できる。
	改善のための提言 特になし
評価基準 社会連携・社会貢献	
中期目標	1) 連続シンポジウムなどの公開授業やデザインスクールを展開し、デザイン工学分野が果たす社会貢献・社会連携を強化する 2) 沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを推進する
年度目標	1) 公開授業やデザインスクールを具体的に実施する。 2) 地域住民との交流を深め、「景観・まちづくり」の具体的な改善提案を行う。
達成指標	1) 告知方法を工夫して、特定の高校に偏ることなく、できるだけ多くの高校生が参加できるようなデザインスクールを開催する。 2) 学生と教員による現地調査を行い、地域住民と学生によるワークショップを開催する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価 A
	理由 1) 7月にデザインスクールを開催し、定員20名に対して、82名の応募があり、抽選方法を工夫して付属高など一定の高校に偏らないように配慮した。ただし、当日欠席者が数名いたため、参加者は定員20名に満たなかった。 2) 沼津市との取り組みについては2022年度に実施した学生・住民ワークショップの成果を受け、沼津市が実施設計に向けた検討を進めており、まだ改善の提案には至っていない。これとは別に、山形県大江町における最上川かわまちづくりにおいて、治水事業と文化的景観の両立検討のため、学生・教員・地元住民が参加するワークショップを5回にわたって実施した。
	改善策 1) 当日欠席者を見越して、数名を多めに当選者を決定するなどの工夫をする。 2) 沼津市の検討が終了次第、具体的な整備内容に関するワークショップを実施する準備を進めていく。
	質保証委員会による点検・評価
	所見 1) デザインスクールの応募に対して、高校間で偏りのない抽選方式を採用したことは評価できる。 2) 沼津市「景観・まちづくり」の具体的な改善提案は、市と連携してできるだけ早めに着手すべきであるが、山形市大江町において新たにワークショップを立ち上げたことは評価できる。
	改善のための提言 1) 特になし 2) できるだけ早めに沼津市と協議し、具体的な改善提案を行い、ワークショップ開催の日程を決めるべきである。
【重点目標】 デザイン工学部基盤教育の基本方針に沿って、採用方法と採用方針について再検討し、専任教員の新規採用する。 【目標を達成するための施策等】	

基盤教育担当の専任教員2名の採用人事を行う。
【年度目標達成状況総括】 重点目標である「基盤教育の基本方針に沿った基盤教育専任教員2名の採用人事」を行うことができた。バランスの取れた年齢構成で多様な専門分野を持つ人材を確保することができたので、今後はこの人材を活かしたカリキュラム改革の検討に着手していく。 高学年向け外国語教育、学部横断型科目、オンライン科目などの実態はある程度把握できたが、今後は本格的なアンケート調査等を行い、これらについても今後のカリキュラム改革に活かしていきたい。 教員や学生の受賞作品や論文等はホームページの速報ですぐに周知されているが、過去の実績を含めた作品・論文を一覧できるような作品集サイトを3学科で作成していきたい。 デザインスクールの開講や地域との連携によるまちづくりの取り組みなど社会貢献や社会連携についても目標を達成するだけでなく、さらに拡大し、活発に実施していきたい。

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	1) デザイン工学部基盤教育方針を反映したカリキュラムの再整備を行う 2) デザイン工学部全体の英語教育のあり方について検討する
年度目標	1) 基盤教育科目について個別具体化をはかる。 2) デザイン工学部全体の英語教育について学生目線で検証する。
達成指標	1) 「基盤教育委員会」で新カリキュラムに向けた基盤科目の方針を定める。 2) 学生モニター制度を活用して、英語教育について学生からヒアリングを行い、記録・報告する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	1) 造形製作教育の中期的な運用・更新計画を検討する 2) 対面とオンライン教育を併用した実効的な教育方法を検討する
年度目標	1) 造形制作室の実用性を高めた運営方法を改善策を策定する。 2) オンライン実施が効果的な講義コンテンツの構築。
達成指標	1) 現行予約システムの検証と見直しを行う。 2) 習熟度によっては繰り返しの確認が必要な科目や内容のチュートリアル化、オンデマンド化を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学部横断的な学習成果の共有と評価方法を検討する
年度目標	・学部横断科目の確認と他学部学生の履修状況をより綿密に把握・分析し、共有する。
達成指標	・他学部からの受講生の多い科目について、担当教員からヒアリングを行い、記録・報告する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	デザイン工学部の教育の特徴や魅力を独自に発信する方法を検討する
年度目標	・集約した教員や学生の受賞情報等をより訴求できる掲示方法を改善策を策定する。
達成指標	・教員や学生の受賞作品や受賞論文を容易かつ効果的に提示できるホームページの構成を設計案を提示する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	2021 年度に策定した基盤教育方針に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
年度目標	・教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行う。
達成指標	・教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行いつつ、退職教員の後任人事を進める。
評価基準	学生支援

中期目標	学生と教員の円滑な連絡手段を整備する
年度目標	・新たに導入された学習支援システムにおける、教員・学生間の連絡方法の課題を把握する。
達成指標	・教授会や学科会議で新システムの課題共有の機会を設ける。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	1) 連続シンポジウムなどの公開授業やデザインスクールを展開し、デザイン工学分野が果たす社会貢献・社会連携を強化する 2) 沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを推進する
年度目標	1) デザインスクールの効果について検証する。 2) 地域住民との交流を深め、「景観・まちづくり」の具体的な改善提案を行う。
達成指標	1) NPS (Net Promoter Score) などの手法を援用し、デザインスクールの効果測定を行う。 2) 学生と教員による現地調査を行い、地域住民と学生によるワークショップを開催する。
【重点目標】 基盤教育科目について個別具体化をはかる。 【目標を達成するための施策等】 「基盤教育委員会」で新カリキュラムに向けた基盤科目の方針を定める。	